

札響くらぶ

Sakkyo Club



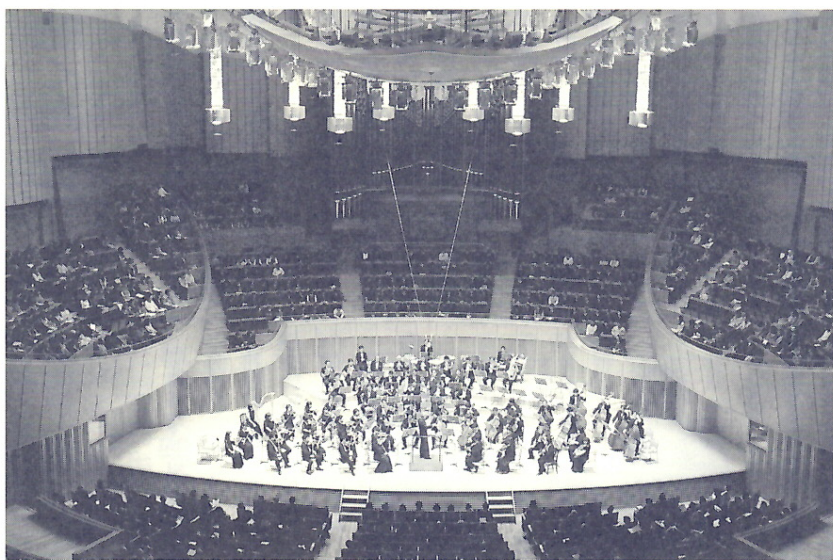
57

【編集・発行/札響くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付
メール：info@sakkyoclub.net
ホームページ：http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2012.1

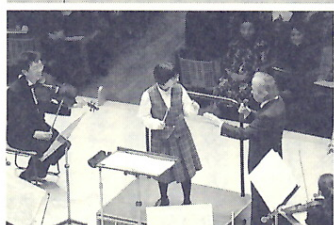
「第9回札響くらぶコンサート」札響と遊ぼう」を開催

平成23年11月5日キタラ大ホールにおいて第9回目となる札響くらぶコンサートを開催しました。今回のコンサート開催に当たっては、札幌市内の小学校6年生を対象に行われているファーストコンサートの感動を忘れないように子供達に1回きりではなくもう一度



第9回札響くらぶコンサート～札響と遊ぼう～ (2011.11.5札幌コンサートホール Kitara 大ホールにて)

聴いてもらうことでもっと心に深く感動を刻んでもらい、音楽の力でもっと心を豊かにしてもらおうと吹奏楽や合唱等音楽に関わっている中学生を招待するとともに、札響とキタラホールの素晴らしさを世界に発信するため、留学生を招待させていただきました。招待



プレトーク (上)、指揮者に挑戦 (下)

費用は協賛金を集め、合わせて400名余りを招待することができました。当日は、多くのお客さまに来場いただき、開演前の上田会長と尾高音楽監督のプレトークで盛り上がり、期待の高まる中でコンサートが始まりました。

1曲目はオーブニングにふさわしく、ワグナーの楽劇「ニルンベルクのマイスタージンガー」の前奏曲で会場は華やいだ雰囲気。続いて2曲目はこの日のメインプログラムとして、札響のコンサートマスター伊藤亮太郎さんがソリストを務め、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲が演奏され札響の良さを満喫することができました。

休息後の3曲目は、シベリウスの交響詩「フィンランディア」。シベリウスは札響が得意とするところで、この曲は最近レコーディングも行われており流石の演奏でした。そして「札響と遊ぼう」とい

うことで久しぶりに復活した「指揮者に挑戦」コーナーは課題曲がブラームスのハンガリー舞曲第5番という難曲でしたが、尾高監督のフォローもあり、和やかな雰囲気の中で楽しいひとときを過ごすことができました。プログラム最後の曲は、ヴェルディの歌劇「アイダ」から凱行進曲。トランペットが有名な曲ですが、この曲は札響の中に東海大学付属第四高等学校吹奏楽部の部員14名が加わり演奏されました。同校の吹奏楽部は全日本吹奏楽コンクールの金賞受賞常連校で、この日の演奏もその実力を遺憾なく発揮して、聴衆を大いに感動させてくれました。

アンコールは同校部員も加わったエルガーの威風堂々でコンサートは成功裡に終わりました。札響はじめ、このコンサートに賛同していただいた多くの皆様に感謝いたします。今後もより多くの方に札響の良さを伝える活動を続けてまいります。(村上均)

第6回 JOFC 総会 in 札幌の開催のお知らせ

昨年、金沢での第5回 JOFC 総会 in 金沢11において、来年は札幌で開催を、という要望を受け、運営会議で検討した結果、札幌での開催を決定しました。

参加される方々に世界一音響が良いと評価される札幌コンサートホールキタラで、札響の最高の演奏を聴いていただきたい、中島公園の紅葉もまだ見ごろであり、気温も15度くらいで温かくはないけれど、1枚はおれば寒くもない、という気候の11月9日、10日の尾高音楽監督が指揮する演奏を聴いていただくことと検討を行い、B日程の10日(土曜日)を開催日とすることとし、次のような概略のスケジュールを調整しました。

20:30 二次会 会場未定

18:00 懇親会 会場未定

15:00 札響定期演奏会

12:30 総会 会場未定

※演奏会以外のタイムスケジュールはすべて予定です。参加者は、札幌開催の期待が大きいと見え、100人前後になることが予想されますので、総会、懇親会の会場は中島公園周辺のホテルで検討したいと考えています。

演奏会を楽しく聴くために (2月~4月の定期・名曲シリーズ)

八木 幸 二 (札幌くらぶ会員)

第546回札幌定期演奏会

2月10日(金) A日程
2月11日(土) B日程
指揮/高岡 健 (正指揮者)
ピアノ/児玉 桃
オンド・マルトノ/原田 節



高岡 健 (佐藤雅英)



児玉 桃 (Vincent Garnier)



原田 節 (タカシ) (札幌提供)

■メシアン / トゥーランガリラ交響曲

鳥のさえずりを探譜し、それを音楽として取り入れた作品やキリスト教的テーマによる作品を多く作曲したオリヴィエ・メシアンは、現代フランス音楽というより20世紀における音楽を世界的に牽引し

た作曲家である。作曲家別宮貞雄とは、特に親好が厚く日本にも何度か訪れ、大の日本びいきでもあった。メシアンの代表的作品である「トゥーランガリラ交響曲」は、彼の初期から中期にかけての総決算的作品といわれ、日本でも演奏回数は比較的多いが、今回は札幌としては初めて演奏される。札幌では、08年にP.M.F.オーケストラが、準・メルケルの指揮で極彩色な音楽をつくっていた。この作品で演奏されるオンド・マルトノは、電子鍵盤楽器の元祖のようなもので普段はお目にかかることのない特殊なものだ。今回はP.M.F.オーケストラと共演した、この楽器の第一人者原田節が、神秘的な響きを聴かせてくれることだろう。曲は10楽章からなる長大なものでコンサートによっては組合せを変えて数楽章省いて演奏されることもあるが、今回は全楽章が演奏される。

「トゥーランガリラ」とは、サン・スクリット語で「愛の歌」あるいはリズム形の名称、あるいは女性の名前としても存在することばである。燃焼する愛の賛歌が80分におよぶ時間空間の中で、どう奏でられるかご期待願いたい。

第547回札幌定期演奏会

3月2日(金) A日程
3月3日(土) B日程
指揮/下野 竜也
ピアノ/デヤン・ラツィック



下野竜也 (Takashi Tomooka)



Dejan Ryzhik (Susie Knott)

■ブラームス/ピアノ協奏曲第3番

ブラームスに3番目のピアノ協奏曲が!?と驚かれる方も多いかも知れない。実は、ブラームスの名曲ヴァイオリン協奏曲をピアノ協奏曲に作りかえたもの。この編曲者が当日ピアノ独奏をするデヤン・ラツィックだ。彼は、08年の2月札幌定期でモーツァルトのピアノ協奏曲で共演し、大変スケールの大きいカデンツァが印象深かった。幼年期にクラリネットも習得し、ピアノと共にコンクールで優勝するほどの才能の持ち主。さらに作曲の才能も発揮している。

「ピアノ協奏曲第3番」はCD化されており、そのディスクを聴くと原曲であるヴァイオリン協奏曲の扇情的で躍動感あふれる楽想を更に精緻なピアノリズムで描ききつている。原曲のヴァイオリン協奏曲を知らずにこの曲を聴いたならば、まさにブラームスのピアノ協奏曲そのものだと思うに違いない。それほど独奏部分がピアノスティックに書かれている。ラツィックの編曲技法は原曲の持ち味を劣化させることなく、ひたすらブラームスのロマンティズムを精彩に描いている。

■ブルックナー/アダージョ

交響楽作曲家としてのブルックナーが、宮廷楽団における彼の上司ヘルメスベルガーのたつての依頼によって書かれたのが弦楽五重奏曲へ長調である。数少ない室内楽曲の中の一曲で、1879年に作曲されたこの作品はベートーヴェンの弦楽四重奏曲の「大フーガ」を想起するような技巧を駆使し、調的变化も著しく無調的な感じさえ受ける部分もある。このようにそれまでの交響曲的な様式から脱却しようとする意志が垣間見られるブルックナーにおける現代的な面が顕著に現れている。4楽章のうち、とりわけ第3楽章が有名で、弦楽器の哀愁をおびた美しい音の積み重ねが印象的だ。この緩徐楽章を原曲としてスクロヴァチェフ

スキが弦楽合奏用に編曲した。スギが弦楽合奏用に編曲した。

■ヒンデミット/交響曲「画家マティス」

交響曲「画家マティス」の完成する以前に同名の歌劇がつくられていた。しかし、新古典主義的作品やジャズの手法を取り入れ斬新で実験的な作品を書いていたヒンデミットに対し、ナチスは快く思っていない。作曲された歌劇が風俗的な理由で好ましくないとヒトラの側近が報告したため、歌劇「画家マティス」は上演禁止になってしまった。そこで、ヒンデミットは演奏会用作品としてこの歌劇をもとに交響曲として作りかえ、フルトヴェングラー指揮・ベ

英国 万歳!

3月17日(土) 15:00
指揮/尾高 忠明 (音楽監督)
テューバ/玉木 亮一



尾高忠明 (佐藤雅英)



玉木亮一 (佐藤雅英)

■ウォルトン/戴冠行進曲「王冠」

英国の作曲家ウィリアム・ウォルトンは、2曲の戴冠行進曲を作曲しているが「王冠」は1937年にイギリス国王ジョージ6世の戴冠式で演奏されている。軽快で煌びやかな主題のあと中間部のトリオは、優雅な旋律が歌われグラインド・マーチのスタイルで書かれている。吹奏楽版にも編曲されている。演奏される機会も多い。

■デイリアス/楽園への道

「ロミオとジュリエット」を下敷きにスイスの小説家ゴットフリート・ケーラーが「村のロメオとユリ

ア」という小説を書いた。これを原作にデイリーアスが自ら台本を書き作曲したのが3幕6場からなる「村のロメオとジュリエット」である。村の少年と少女が両家の激しい対立の中で小舟に乗って「楽園」の道へ進むと、そこはかつて豪華だったが、今は荒れ果てている館の庭園に行きつく。そんな情景が情感たつぷりに描かれているのが「楽園への道だ。オペラの間奏曲を英国初演で指揮をしたT・ピーチャムが独立した管弦楽曲としてまとめている。

■ブリテン／4つの海の間奏曲、歌劇「ビター・グラムス」より

歌劇「ビター・グラムス」は、08年に尾高忠明指揮、独唱に福井敬らを迎え札幌が、コンサート・オペラとして名演を聴かせた。ブリテン出世作としても名高いこの作品は、漁師ビター・グラムスが徒弟の少年を殺したとの嫌疑をかけられ、自らを海に沈めるために舟を沖に出すという物語。このオペラで演奏される4つの間奏曲を作曲者が管弦楽曲に仕立て直したのが「4つの海の間奏曲」である。教会の鐘が鳴る爽やかな朝の情景から月光に照らされた静寂な夜の町並み、そして荒れ狂う海の様子が見事に描写されている。3年前のあのオペラの感動が尾高忠明の指揮で再び甦るだろう。

■ヴォーン・ウィリアムズ／

テューバ協奏曲
グリンズリーヴスによる幻想曲
ロンドン交響楽団創立50周年祝賀コンサートにおける委嘱作品として書かれた「テューバ協奏曲」は、テューバ作品の重要なレパートリーになっている。イギリス民謡が基底にあるため日本人にも耳馴染みやすい旋律でつくられている。特に第2楽章は「ロマンス」と呼ばれる情緒溢れる作風。普段のコンサートでは、めったに聴けないテューバ独奏のカデンツァに注目！

中学校の教科書にも登場するグリンズリーヴスの有名な旋律は、16世紀から発祥されたと言われる。シェイクスピアの「ウィンザーの陽気な女房たち」をもとにヴォーン・ウィリアムズがつくったオペラ「恋するサー・ジョン」の中でこの旋律は用いられ、後に「グリンズリーヴスによる幻想曲」として管弦楽曲にまとめられた。

■エルガー／序曲「南国にて」
行進曲「威風堂々」第1番
颯爽とした出だしではじまる序曲「南国にて」は、まるで一昔前のハリウッド映画のタイトル音楽のようだが、エルガーが夫人とイタリア北西部のリゾート地、アラッシオに滞在した時の印象をこの作品に込めている。地中海の明るい情景が浮かび上がることだろう。エルガーの作品中、誰もが一番聞き覚えのある曲と言ったら行進

曲「威風堂々」。この曲は1番から5番まであるのだが、お馴染みの曲は、何と言ってもこの第1番だ。

第548回札幌定期演奏会
4月27日（金）A日程
4月28日（土）B日程
指揮／ラドミル・エリシユカ
ドボルジャーク／
スケルツォ・カプリチオーソ
交響詩「野鳩」
交響曲第9番「新世界より」

恒例となった年度の口火を切るエリシユカが、今回もドボルジャークの真髓を聴かせてくれる。自由な感情をスケルツォにのせて表現した「スケルツォカプリチオーソ」は、序曲「フス教徒」とともに1883

玉木亮一
TUBAリサイタルを聴く

寒い日だ、夜の外出が億劫な年頃になった。
でも、テューバのリサイタルなんて今まで聞いたことがないので好奇心を満たすべく第一級の寒装備でスケートリンク化した道をヨチヨチ歩いて会場に着いたら寒い屋外で十五分待たなければならなかった。（全席自由だといひ早く来ちゃうんだよ。）

ブラス・バンド仲間らしい中学生のグループがあつちこちでペちゃくちゃおしゃべりしている。「イケメン」という言葉が飛び交っている。

席に着いてホツとしていたら隣に座ったご婦人が、話しかけてき

た「テューバのリサイタルって珍しいから来てみたんですよ。」おもしろい顔を見合せて笑っちゃった。テューバは手に持って演奏する楽器で一番大きいし一番重いだろう。



ラドミル・エリシユカ ©佐藤雅英

12/19 札幌サンプラザホール

ベルリオーズが幻想交響曲の中で使ったのが、オーケストラ楽器として使われた最初らしい。

昔、アメリカ映画でジェイムズ・スチュアートが近所の人からテューバを吹く変わり者と言われる役をしていた記憶がある。私のテューバの知識はこの程度ですね。

音についてはとにかく低い音、地の底から湧きあがるような体にズシンと響くのが心地いい。

年に作曲され、洗練とした気分と民族風の長閑な旋律が対照的に奏でられ、オーケストレーションも実に巧妙だ。夫を毒殺した女と青年の悲劇的な愛を音楽で綴った交響詩「野鳩」は、08年の札幌定期でM・トゥルノフスキーが淡いセピアの色調で叙情豊かに指揮したが、エリシユカがどんな色彩で描くのか楽しみだ。（存じ）「新世界より」は、ドボルジャークが音楽院長に就任するためアメリカに渡り作曲さ

れたものだ。素朴なインディアン
の民謡や黒人霊歌に強い影響を受け作曲されたが、決して、アメリカそのものを描写したものではない。彼は、新天地のアメリカに渡ったことで、あらためてボヘミアの精神と故国への郷愁が盛り込まれた新しい音楽を書こうとしたのだ。誰もが口ずさめる「新世界より」の第2楽章は、ドボルジャークの代名詞的旋律で後に彼の弟子が「家路」という題名で歌曲にしている。

オーケストラでテューバが居ると、なぜか嬉しいような待ち遠しいような気がするのは私だけかなあ。奏者が楽器を持ち上げるとわくわくする。超重低音が響くと巨

人に持ち上げられて、オーケストラが全部包みこまれたように感じる。まさに「縁の下の方持ち」。

テューバの音は何かに似ている、そう、半世紀ほど昔の肉食系男子がオートバイに跨り背中に女の子を張りつけて、テューバのような音を引きずりながら走ったっけ。

時には投げ出されたりして、今日のように寒いと古傷が痛む。

曲について
コンチェルト・アレグロ／アレクセイ・レベジェフ
スタツフ〜七つの???
ジェームズ・グラント
ワルツ フォア ベツツ／ジェームズ・グラント

テューバ協奏曲／エリック・イウエイゼン
詩曲／ボリス・アニシモフ
ここまで聴いたことがない曲だった。
イギリス民謡による六つの練習曲／レイフ・ボーン・ウィリアムス
幻想小曲集／ロベルト・シューマン

聴いたような曲だけど、なんだったかな？ テューバで聴くと違う曲に聴こえる。

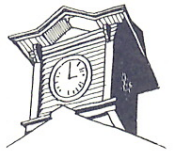
アンコールはピアソラ、最低音で聴くりベルタンゴは不思議な魅力がある、悪くない。

玉木さんについて
細身なのに重そうな楽器を軽々と持ち上げる逞しさと、白くて細い指、テューバを吹くと頬が紅潮して、子供のころは紅顔の美少年だったろうな、今も白皙の美青年だけど…。
（中婆）

札響物語 56

札響の50年を振り返る(1)

竹津 宜男(札響くらぶ会員)



2011年は札幌交響楽団の創立50周年の年だった。

労音の演奏旅行(1960年10月)で来札した時、3日間の最終公演終了後出演者と労音会員の交流会があった。「札幌は素晴らしい、好きなこの街にオーケストラがあったら飛んで来ますのに」と言った翌年札響が誕生し入団した。

創立の頃を振り返ってみると様々なことが思い出される。

札幌市民の中にはプロ・オーケストラの誕生を待ち焦がれている人達が大量にいた。創立記念演奏会(1961年9月6日)の終演後、楽団員数人と一緒に「ピーター」という名の喫茶店に入ってNHKのTVニュース「札幌市民交響楽団が誕生」を見た後、下宿の南5条西22丁目へ帰るため楽器を抱えて市営バス啓明線の南3条西5丁目停留所まで列に加わっていたら超満員のバスが到着した。楽器(ホルン)を持っていて「乗れないかな」とステッブの前で逡巡していたら「札幌市

民交響楽団が乗るから」と中から声がかかり何とか詰めてもらって乗ることが出来た。乗れただけでなく身動きも取れないバスの中で席まで譲ってくれた、一旦断ったのだが「せっかくなので空けたのだから」と再度促されて申し訳なく思いながら椅子に座らせていただいた。あの時、バスの中から声を掛けてくれた数人の人達は創立演奏会の聴衆だっただけでなく「プロ・オーケストラの誕生を待ち焦がれていた」人達だったに違いない。

創立当時札幌には市民の音楽愛好家の代表数人からなる企画委員会があり私はオーケストラのインスペクターの立場で参加していた。会議では「ムソルグスキーの展覧会の絵が聴きたい」や「幻想交響曲が聴きたい」などの声もあったが誕生したばかりのオーケストラにはどい無様な相談だった。

第一回定期演奏会以降、2管編成55人と言うオーケストラのサイズに制約されることも大きな要因だったが初代常任指揮者、荒谷正雄氏の「しばらくはオーケストラの音作りを続ける」と言う強い意

(1945年創立)、京都市交響楽団(1956年創立)と共に同じ舞台上で演奏した。この演奏会には東京からも多数の音楽評論家が聴きにきていて札響が演奏したモーツァルトの交響曲第35番「ハフナー」とハチャトゥリアンの組曲「仮面舞踏会」の「ワルツ」は大変高い評価をいただいた。外での高い評価とは別に相変わらず人気は出なくて定期会員や演奏回数増加にはつながらなかった。

55人の団員の3分の1がプロの正団員で残りは準団員と呼ばれるアマチュアだった。とは言え演奏技術はしっかりしていて若いオーケストラの存在を大きく支えた。正団員の平均年齢は20歳ほど、準団員は荒谷正雄氏と共にドイツへ留学していた恒子夫人を始め社会人が多く社会性は準団員に頼らざるを得なかった。ただ仕事を持っていたり学生だったりした準団員は正団員と一緒に昼間の練習をすることが出来なかつたし演奏旅行などで何日間か時間を割くことも出来なかつた。札響がプロ・

誕生の翌年1962年12月3日に「芸術祭三市交響楽団特別演奏会」で群馬県の高崎・群馬音楽センターで先輩格の群馬交響楽団

チャペルに響くバツハ

大森潤子 バツハ無伴奏バイオリン演奏会

(11月30日 北星学園大学 無料)

札響にこんなに凄い人がいたんですね。久し振りに胸が震え心に沁みる演奏を体験しました。バツハの(無伴奏バイオリンソナタ第2番・第3番)は、「東日本大震災」に見舞われた特別な年(平成23年)に教会で聴くのに相応しい曲でした。

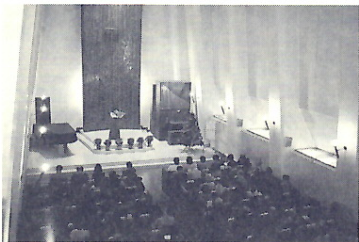
大森さんのバイオリンからは何時も強い意志を感じます。音は透明で澄んでいるのですが、私たちは大森さんの奏でる心地よい音楽の世界にぐいぐいと引き込まれてしまうのです。小柄でスリムなお体のどこにこのようなエネルギーが潜んでいるのでしょうか? 曲の解釈も新鮮に思え、風格すら感じる正に堂々たる演奏でした。拍手が何時までも鳴り止まないのは当然のことで聴衆は皆、興奮した事と思います。

残念だったのは私たち聴衆のマナーです。幼児の声・ドアの開閉の音ハイヒールと思われる靴音・傘の倒れる音。時節柄咳やくしゃみは生理現象なので仕方ないとは思いますが、せめてハンカチで口元を押さえる程度のことでは誰でもできると思うのですが、演奏を途中で止めてしまうのでは? とハラハラしました。

大森さんはお話もお上手ですね。札幌50周年記念ヨーロッパ公演や被災地の実態と小学校を巡るコンサート体験には皆さん深く頷いていました。私は大森さんの飾らない真摯な演奏が好きです。これからは大森さんの出演する演奏会は逃さず聴きに行きます。4月の『第2回カメラータ』も楽しみにしています。

使い古された言葉ですが、心が洗われる」とはこのような演奏なのだと思われ、興奮した。(案談手)

靴音・傘の倒れる音。時節



「第5回JOFC総会in金沢」旅行記

2011年9月16日～19日（3泊4日）

9月16日、一行9人が出発する新千歳空港の集合場所ANA出発カウンター前で8人、待合室で1人、計9人全員集合した。

飛行機は、定刻よりも10分ほど遅れて離陸、まもなく水平飛行に移ったが雲海で下はまったく見ず、着陸寸前になって能登半島がわずかに見えただけ、小松空港には予定の時刻より10分ほど早く着陸、しかし、天気予報に反して雨、金沢に着いても雨、天気予報は台風12号の影響で狂ったようだ。バスを降りてからも小雨が続く、ホテル東横イン金沢駅東口に近くなつてから傘を取り出す羽目に。

東横インは泊るだけの狭い部屋ホテルと聞いていましたが、ベントはセミダブルでゆつたりしていてそれなりに余裕のある部屋でホッとしました。ホテルで先発していた2人と合流、夕食へ明日の二次会予定の隣のよし久に行ったが席が確保できなく、ホテルに戻りホテル推薦のお店を紹介してもらい、そのお店で夕食となった。料金はリーズナブルであったが、料理はボリュームもあり結構なもの、最後に出た御飯が、なんといくら丼であった。地酒とともに金

沢で最初の料理に満足して楽しんで第1夜であった。

17日も朝から小雨模様だったが、午前中、全員で石川県立美術館に出かけ、同館を含む西日本の14美術館、博物館が所蔵する陶磁器、銅器、漆器、織物などの名品展と同館の絵画などコレクション展を見た。陶磁器が多く展示されていて、沢山の名品に出会うことができたが、数が多くて見るだけとなってしまったのがちょっと残念、また、漆器というのは赤と黒だけかと思いついていたが、香川漆器のなかにベージュ色というのが黄土色というのか表現が難しいが色漆というのに出会い、少し知識が広がった。この日の昼食は金沢駅の食堂街で金沢名物のうどんとなった。

午後は、第5回JOFC総会in金沢に出席。総会前に「金沢宣言」の文案確定のために役員会を開催して確認、確定、ここで会長が合流して参加者12人が揃う。

総会は、上田JOFC会長、田中楽友会代表幹事、来賓の挨拶、JOFC役員紹介、各クラブの活動報告は北から順で札幌くらぶ、仙台フィルハーモニークラブ、山響ファンクラブ、群響ファンズ、名フィル



JOFC 金沢総会（左中程が札幌くらぶの席）

ファンクラブ、広響フレンドが発表、最後は主催者の石川県立音楽堂楽友会が行った。活動報告は1クラブ7分の持ち時間で、途中2分前でベルが鳴らされたが、ともすると長くなりがちな活動報告がほぼ時間どおりに進められ、初めての試みとしてはよかったと思う。

総会前に確認した「金沢宣言」が提案、拍手で採択され、次年度開催地について、広島が順番となるが現状では開催は難しいとのこと、札幌市での開催を要望され、札幌くらぶとして持ち帰って前向きに検討したいと応え、総会は予定の議事をすべて終え閉会、オーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）の定期公演を聴くために隣の石川県立音楽堂コンサートホールに移動した。

なお、総会の最後に都響倶楽部から入会するにはどうしたらいいか、との問合せがあったことが報告され、是非との声がかかった。

OEKの第307回定期公演はマイスターシリーズ、ヘンデルのイギリスでの成功から没するまでの生涯をオラトリオで聴かせるまれた。ヘンデル役にOEK音楽監督井上道義、ヘンデルの生涯を執筆したロマン・ロラン役に俳優の西村雅彦が出演、役柄にハマった演技が素晴らしいかった。

OEKの演奏会に満足し、交流懇親会に参加するため、再び総会場と同じ隣のANAクラウンプラザホテル金沢に移動する。

交流懇親会は、OEKメンバーによるカルテットで「下ボルザーク／弦楽四重奏曲「アメリカ」第一楽章」で始まり、井上道義OEK音楽監督、上田JOFC会長、山腰音楽堂館長の挨拶、工藤JOFC副会長の乾杯で開宴、クラブ同士や個々の懇親を深めた。途中井上氏が所



JOFC 懇親会で参加者を紹介する西川副会長

用のため退場し、各クラブの紹介が北から順の札幌くらぶから行われ、札幌での再会を誓い、加藤JOFC副会長の終宴のことばで閉宴、参加者全員で記念撮影をして、前日席が取れなかった二次会開場の金沢味食亭よし久に向かった。

二次会は、約40人ほどが参加、札幌くらぶは12人全員が参加して個々に親睦を深め、10時過ぎにお開き、散会した。今回の旅の主目的「第5回JOFC総会in金沢」の参加の1日が終わった。

18日は、2人が札幌や勤務地へ、上田会長は独自のスケジュールで別行動となり、1人は金沢の友人と能登観光へ、8人は予定どおり金沢観光に出かけた。

まず、楽友会がセッティングしてくれた音楽堂見学会に参加、コンサートホール、邦楽堂ともに普段立ち入ることのできない裏側を山越音楽堂館長の説明で見学することができ、来年の札幌総会での参考となった。



石川県立音楽堂「邦楽堂」ロビーのリレーフ

続いて、吉川楽友会事務局長の案内で金沢21世紀美術館、長町武家屋敷跡、室生犀星記念館を訪れた。金沢21世紀美術館は、外壁が総ガラス張りの円形の平屋の建物の中に無数に仕切られた有料無料の展示室があり、色々な展示、イベントが行われており、無料の展示室を約1時間ほど覗いて歩いた。長町武家屋敷跡を散策するところには気温が30度を超え、途中あまりの暑さに耐えかねて立ち寄った茶屋のかき氷がとても美味しかった。屋敷跡には今も人が住み生活している街でその様子も伺えた。室生犀星記念館は、犀川を渡ってしばらく歩いたところにある、途中の新橋の上での川風が気持ちよく涼を呼び込んだ。記念館は犀星の一生が順に辿れる展示になっており、犀星の人となりを知ることができた。

市内観光は、ここでいったん終了し、案内していただいた吉川事務局長と別れ、ホテルに戻り、休憩後、ライトアップされている夜の兼六園の散策に出かけた。桂坂口から霞ヶ池を廻って真弓坂口に至るコースを散策し、近江市場で金沢最後の食事と地酒を楽しんだ。

19日早朝、雨の金沢を立ち、小松に向かい、羽田で乗り換え、午後1時30分過ぎに新千歳に着き、3泊4日の旅が終わり各自家路につきました。（武藤 義典）

森の響フレンドコンサート
札幌名曲シリーズ2011-2012 Vol.3

「愛しきアマデウス」

11月26日に開催された名曲シリーズのコンサートは、かねてよりモーツァルトマテを自認している私としては、今年一番期待を寄せていたプログラムでした。序曲に始まり、協奏曲で盛り上げ、休憩後はディヴェルティメントで心躍らせ、最後の交響曲で大団円を迎える。このように理想的な演奏会の流れを一人の作曲家で構成できるというのもさすがモーツァルトならではと誇らしく（！）思ったのは：まあ、私一人だけだったでしょうか。

当日の指揮者 児玉宏さんはキタラに初登場とのことで、ホルルの素晴らしさを説き、ユーモアを交えたオープニングトークをされました。曲の合間等にお話されるのを個人的にも毎回楽しみにしていますが、今回は少し控えめだったかもしれません。

この日の演奏曲中で最も注目されていたのは「クラリネット協奏曲 K.282」だったかと思えます。ベルリンフィルのソコ奏者としても名高く、50年以上演奏活動が続けられているカール・ライスターさんが登場とのことで、ほぼ満席の客席に高い年齢層の人がいつもより多く感じたのも頷けるというもので

す。チェロ奏者などにも使われる台に着席したライスターさん、小編成のオーケストラメンバーが囲み、優しくあくまでも自然な響きで演奏が始まりました。クラリネットの演奏は人と楽器が一体となり、身体全体から音楽が鳴りだしているように響いてきて不思議に思いながらも聴き入っていました。

モーツァルトの作品については「天上の音楽」とたとえられることがよくありますが、死の年に作曲されたこの協奏曲特に第二楽章はその名に相応しい音楽だと思えます。ゆったりとした高音部は幸福感にあふれながらも同時になぜか哀しい想いが胸の中に広がってきて、美しい旋律を聴きながら、そんな雰囲気会場全体に漂っているように感じてしまいました。

18世紀ころのヨーロッパでは宮廷の会食中などに演奏されたという「ディヴェルティメント」という楽曲ですが、モーツァルトの手にかかるとどの小品といえども名曲ぞろいということに驚かされます。とくに今回の「K.136」は躍動感にあふれる楽しい曲調で、アンコールで爽やかに演奏された「K.137」もこの曲と兄弟といっ

てよい作品でしょう。

そして、力強いティンパニの音がモーツァルトとしては珍しく鳴り響く特徴をもつ交響曲第35番「ハフナー」で最後の幕となりました。

来年度のプログラムが発表され、5回開催となる名曲シリーズではモーツァルトの2曲が含まれていました。今からまた楽しみに待ちたいと思います。（長屋純子）

ドイツ映画「野ばら」鑑賞会

～野ばら合唱団の帰朝演奏会と大平さんのピアノ独奏も共催～

晩秋で菊の香の名残が漂う昨年の11月23日、京王プラザホテル札幌でドイツ映画「野ばら」（1957年＝昭和32年）の鑑賞会が行われた。

解説された平山亮夫氏（前斗南病院院長）の話によると、この時期のドイツ映画は、第2次世界大戦での傷あとの残るドイツで作られることは少なく、殆んどがウィーンをはじめとするオーストリアで作られることが多かったという。

この作品もまさにその感が深く、ハンガリー動乱で避難してきた主人公のトニー少年が親切な老人に引き取られ、ウィーン少年合唱団に入り、アメリカ公演の劇「美しい兄弟」で主役に抜擢されるまでの経過が、ウィーン少年合唱団の



練習見学会のお知らせ

札幌会員と札幌くらぶ会員合同で「第547回札幌定期演奏会練習見学会」を次のとおり開催することになりましたのでお知らせいたします。

日時／3月1日（木）12時00分～13時00分
場所／札幌コンサートホール・キタラ大ホール
受付／午前11時から正面ロビーの札幌くらぶ会員受付まで

■第547回札幌交響楽団定期演奏会

A日程 3月2日（金）19：00開演
B日程 3月3日（土）15：00開演

指揮／下野 竜也
ピアノ／デヤン・ラツィック

曲目 プラームス／ピアノ協奏曲第3番
ブルックナー／アダージョ（弦楽五重奏曲へ長調より）
ヒンデミット／交響曲「画家マチス」

練習見学会は、「ブルックナー／アダージョ」と「ヒンデミット／交響曲「画家マチス」」の予定です。ソリストは入りません。

見学会を希望される場合は、2月20日（月）までに次のいずれかの方法でお申し込みください。
（事務局長 武藤 義典）
郵便（ハガキ又は封書）／〒064-0931札幌市中央区名島公園 1-15
札幌交響楽団事務局 宛

札幌くらぶ事務局 宛
ファックス／011-563-6460（武蔵）
メール／info@sakkyoclub.net

合唱訓練のあけくれと共に描かれている。

チロルの山なみに響く「ヨハン大公のヨーデル」をはじめ、「私のママはウィーン生れ」「ウエルナーの野ばら」など数々の歌が溶暗の裡に珠玉の名場面とともに心に残っている。

この映画を鑑賞したあと、同年9月中旬にドイツを訪ねしベルリン、ウルム、ライプチヒ、ハレ、ローテンブルクなど13箇所を演奏した「野ばら合唱団」（代表―北翔大学岡元真理子教授）の帰朝演奏会と大平由美子さん（札幌くらぶ会員）のピアノ独奏が行われた。

野ばら合唱団は、ゲーテの詩「野ばら」に1000人余の作曲家が曲をつけていることに着目した故坂西教授の遺志を継いで歌いつづけているユニークな存在である。今回のドイツ訪問でもその評価は高く、ウルム在住のピアンカさん（元札幌市国際交流員ピアンカさんの母）も「感動しました。」と伝えてきている。

大平由美子さんのシューベルトのセレナーデ、夜と夢、ブラームスのワルツ変イ長調は、いずれも格調高い名演奏であった。

最後に参加者80人全員でウエルナーの「野ばら」を合唱し会を閉じたが、ゲーテの「音は消えても人の和は残る」という格言を肌で感じた充実した1日であった。

北海道日独協会会長 鈴木重統

スタッフの活動報告 (平成23年10月～12月)

● 札響くらぶコンサート協賛金募集

10月7日(金)
担当/武藤事務局長

(株)アミノアップ化学、北海道医療生活協同組合に出向き、第9回札響くらぶコンサートへ札響と遊ぶうへの協賛を依頼。

● 第8回札響くらぶ運営会議・第14回札響くらぶコンサート実行委員会合同会議開催

10月12日(水)
札幌コンサートホール2階大会議室

担当/定政事務局長次長、武藤事務局長(9名)

委員会では、チケットの販売状況、販売の取り組み、東日本大震災被災者の招待について、運営会議では、個人情報保護方針の改定、シンボルマークの再募集、会報第56号の進行状況その他について協議を行いました。

● 札響くらぶコンサート協賛金打ち合せ

10月13日(木)

財団法人札幌市職員福利厚生会 担当/武藤事務局長、佐藤ス タッフ

第9回札響くらぶコンサートへ札

響と遊ぶうへの中学生、留学生等の招待に対する協賛について打ち合せする。

● 札響くらぶコンサート協賛金募集

10月25日(火)

担当/武藤事務局長
サッポロビール(株)、全労済北海道本部、教職員共済生活協同組合に出向き、第9回札響くらぶコンサートへ札響と遊ぶうへの協賛を依頼。

● 会報「札響くらぶ」第56号を発行、発送

10月25日(火)

札幌コンサートホール1階第1会議室
担当/武藤事務局長(5名)
会報「札響くらぶ」第56号(8ページ、800部)を発行し、会員、札響楽団員、報道機関等に約700部を発送しました。

● 第9回札響くらぶ運営会議・第15回札響くらぶコンサート実行委員会合同会議開催

10月25日(火)

エムプラザ2階消費者サロン2番
担当/定政事務局長次長、武藤事務局長(9名)

● 第9回札響くらぶコンサート

11月5日(土)

札幌コンサートホール・ニッポロ大ホール
担当/武藤事務局長(16名)
「第9回札響くらぶコンサート」札響と遊ぶうへの開催、入場者数は1485名、当日券は28枚、チケット出券数より160枚ほど少ないという状況でした。

委員会では、チケットの販売状況、協賛の状況、プログラムの印刷について、運営会議では、札響くらぶコンサートの運営業務分担&タイムスケジュール、会報第56号の感想その他について協議を行いました。

● 第9回札響くらぶコンサート

11月5日(土)

札幌コンサートホール・ニッポロ大ホール
担当/武藤事務局長(16名)
「第9回札響くらぶコンサート」札響と遊ぶうへの開催、入場者数は1485名、当日券は28枚、チケット出券数より160枚ほど少ないという状況でした。

● 第10回札響くらぶ運営会議・第16回札響くらぶコンサート実行委員会合同会議開催

11月16日(水)

札幌コンサートホール1階第2会議室
担当/武藤事務局長(7名)
委員会では、出券、入場券数の確認、コンサートの評価、収支状況の概要報告を行い、委員会を解散取支報告等会計事務は特別会計に

● 第11回札響くらぶ運営会議開催

12月5日(月)

エルプラザ4階男女共同参画研究室3番
担当/武藤事務局長(9名)
札響&札響くらぶ交流会へクリスマス集いの運営、札響くらぶコンサートの収支報告について協議しました。

● 札響&札響くらぶ交流会へクリスマス集いの開催

12月10日(土)

札幌コンサートホール2階大会議室
担当/スタッフ一同
札響、札響くらぶ会員合せて40人ほどが参加し、参加楽員の紹介や出演する演奏会の紹介、ビンゴゲームなどを楽しみました。

移管。運営会議では、2012年のJOFCC札幌総会の開催日時、次回コンサート開催について、クリスマスパーティーの開催、会報「札響くらぶ」第57号の編集企画について検討、協議しました。

● 第11回札響くらぶ運営会議開催

12月5日(月)

エルプラザ4階男女共同参画研究室3番
担当/武藤事務局長(9名)
札響&札響くらぶ交流会へクリスマス集いの運営、札響くらぶコンサートの収支報告について協議しました。

投稿 札響に「名誉挽回」を求めます

会報55号の「6月定期演奏会の感想」の記事を拝見し、私も全く同意見なので投稿します。私の息子(17歳)は高校の吹奏楽部に所属しトランペットを吹いています。息子が珍しく「クラブの仲間と札響の定期に行く」と言うのでビックリすると、アーバン『ヴェニス』の謝肉祭」が目的なのだと言いました。勿論私(定期会員)と席は違

うのですが、札響の演奏を母子で聴くのは初めての事なので息子の成長を親として嬉しく思いました。ところが当日のプログラムでソリストの「来日中止」を知り楽しみにしていた曲が演奏されなかったのです。帰宅した息子の落胆ぶりは尋常ではありません。息子いわく「ソリストを変えるとか曲目を変える方法もあったんじゃないか。それもダメで一曲減ったのな

ら例えば500円でも返すべきだ。札響はソリストに支払うギャラが浮いたんだろ。それにプログラムに「変更」とあるのは誤りで「中止」か「取り止め」と書くべきだよ。誤魔化すのは卑怯だ」と一氣にまくし立て怒りは収まりません。息子のキツキツ一言に私は只オロオロするだけで適当な返事ができませんでした。

ソリストが来日を取り止めたのは「東日本大震災」の為でしょうか。対処する時間は充分あった筈です。札響さん、どうか息子を「札響嫌い」にさせないでください。姑息な手段は却って札響の信用を落とします。若者は純真です。息子たちの傷ついた心を癒し信頼を取り戻すために何時の日か「ヴェニス」の謝肉祭」を復活させ青少年の夢を叶えてやって下さい。(涼太の母)

10月末契約満了にて退団されたコンサートマスター三上 亮氏(在団期間4年)に、10月28日定期演奏会後に、11月末定年にて退団されたコントラバス奏者鈴木祐治氏(在団期間36年)に11月26日名曲シリーズ後に、札響くらぶからそれぞれ花束を贈りました。

花束贈呈



三上 亮氏 楽団控室にて



鈴木祐治氏 大ホールステージ前にて

札幌くらぶ会員証の提示により特典が受けられます

●札幌交響楽団のチケット

札幌交響楽団主催の定期演奏会、名曲シリーズ(S席のみ)のチケットが10%割引で、次のチケットセンター、チケット取扱所で一般発売日より購入できます。購入される際に会員証を提示してください。

- ・キタラチケットセンター
- ・大丸ブレイガイド
- ・道新ブレイガイド
- (平成23年度の価格)
- ・定期演奏会(カッコ内は定価、学生席の割引はありません。)
- S席 4,500円
- (5,000円)

A席 4,050円

B席 3,600円

C席 2,700円

名曲シリーズ(カッコ内は定価)

A席、学生席の割引はありません。

S席 3,600円

(4,000円)

●テラスレストラン・キタラ

店内での飲食が10%割引となります。ただし、一部の商品を除くことがあります。お支払いの際に会員証を提示してください。

(北区北12条西1丁目北12条パークマンション1F)

●ダイニング「イル・ネージュ」

札幌くらぶと申し出て会員証を提示してください。シェフからの素敵な特典があります。

ご予約・お問合せは、011-71712555まで。

証を提示してください。

●キクヤ楽器店(狸小路3丁目)

全商品が店内に限り、10%割引となります。お支払いの際に会員証を提示してください。キタラ等の出店では適用されません。

また、楽器を購入される場合は係員に相談ください。

札幌くらぶと申し出て会員証を提示してください。

シエフからの素敵な特典があります。

ご予約・お問合せは、011-71712555まで。

意見・感想をお寄せ下さい

会報に掲載する思い出、感想、随筆やご意見・ご要望など会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。交流会や札幌演奏会の感想、クラシック音楽に関する事、この会報に関する事など特に内容は問いません。

投稿は、ハガキ、封書又はメールで、住所・氏名・会員番号(以上必須事項)・電話番号等連絡先

を添えて、「札幌くらぶ事務局」宛お送りください。

匿名希望の方は、「匿名希望」又は「ペンネーム」をお書きください。(あて先は1ページ目のタイトルの欄にあります。)

投稿の期限は特ありませんが、会報は4月、7月、10月、1月の下旬を発行予定にしておりますので、投稿は3月、6月、9月、12

札幌くらぶML登録アドレス募集

札幌くらぶ会員専用メールリスト(ML)へのメールアドレスの登録を募集しています。MLは、札幌くらぶの「おしゃべりROOM」などの電子掲示板のようなWeb形式と違い、メールアドレスを登録しないと利用できなくなっている会員専用の電子メールですので、迷惑メールなどが送信されることがない、安全なメールの利用方法ですので、安心してご利用ください。

札幌くらぶでは演奏会のお知らせなど、このMLを会員同士の情報交換、交流の場として多くの会員の方々に活発に利用いただきたいと願っています。MLに、新たにメールアドレスを登録される会員を募集いたしますので、次のメールアドレスに「MLに登録希望」と題名を入力し、通信欄に会員番号、氏名を入力して送信してください。

info@sakkyoclub.net

受信後、MLに登録し、利用方法を返信いたします。多くの会員の方が登録されるようお願い申し上げます。また、入会時に会員名簿に登録させていただきましたメールアドレスは、自動的にMLに登録させていただきます。

平成23年度の年会費の納入をお願いします

昨年5月に会報と一緒に平成23年度年会費納入用の郵便振替用紙をお送りいたしました。が、納入をお忘れになっていませんでしょうか。改めてお送りいたしますので、確認のうえ納入をお願いします。

年会費は、札幌くらぶの運営経費と楽譜支援金にあてられておりますので、お振り込みをお忘れの方はお近くの郵便局から至急お振り込みをお願いいたします。

また、年会費納入の際に、任意の追加楽譜支援金も併せて募集しておりますので、ご検討をよろしくお願いいたします。

年会費の納入は、日ごろご利用しております金融機関の預金口座

からの自動振替が便利です。追加楽譜支援金、札幌くらぶコンサートチケット代などのお支払いも口座振替でできますので、ぜひご利用ください。手続きをご希望の方は、電話・ファックス

011-56316460

メール info@sakkyoclub.net

で、会員番号、お名前を申し出てお申込みください。口座振替依頼書をお送りいたします。

上記のほかに、定期演奏会、名曲シリーズの会場の「札幌くらぶサービスカウンター」で、現金でのお支払いも受け付けておりますので、お気軽にお申し付けください。(担当・事務局長 武藤義典)

編集後記

◆穏やかな年明けです。何気ない日常がこれほどありがたいと感じたことはありません。被災に遭われた東北の方々と、今年も札幌を応援できる幸せを実感しています。(里)

◆年末はチューバのリサイタルを聴いてきました。札幌くらぶ「クリスマス・パーティー」のビンゴゲームで当たったエリシユカさんのCDを堪能しています。冬籠りの中(颯)

◆札幌が50周年を迎えた2011年は、日本にとって大きな節目になった1年でした。このようにときに音楽の持つ力を改めて想います。(均)

◆今年も元日から仕事があり、正月は1日遅れてとなったが、出勤前に少し雲がかかっていたが、初日の出を見ることができ、写真に収めてホームページに使用しました。57号の編集作業では、原稿の割り当て字数を超えないようお願いして、皆さんにご協力いただきましたことにより、スムーズにレイアウト作業をこなすことができました。お礼を申し上げます。(武)